

人権・同和問題に関する

鳥栖市民意識調査報告書

概要版



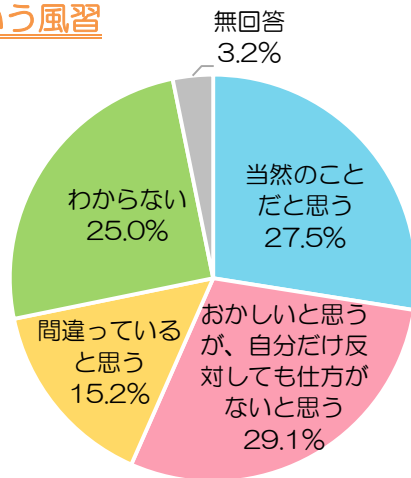
令和2年3月

鳥 栖 市

鳥栖市教育委員会

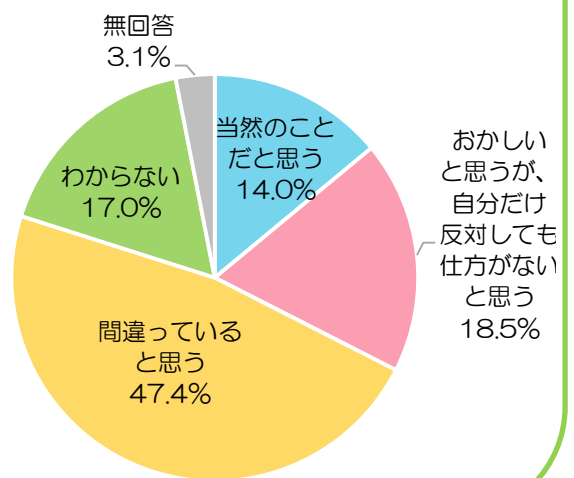
日常生活の中の風習について

◆結婚式は「大安」の日が一番よい。 「友引」の日に葬式をしてはいけない という風習



●「当然のことだと思う」が27.5%、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」が29.1%、「間違っていると思う」が15.2%となっています。

◆結婚相手を決めるときに家柄とか血筋を問題にする風習



●「間違っていると思う」が47.4%、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」が18.5%、「わからない」が17.0%となっています。

◎「結婚式は大安がよい」「葬式は友引を避ける」など、科学的には何の根拠もなくおかしいと感じても、「まわりの人はどう思うだろうか」といった世間体にとらわれたり、そうした考えを他人に押しついたりする傾向があるのではないのでしょうか。

◎迷信や風習にとらわれる生活や生き方、考え方が個人の自由を妨げてしまう場合があります。もう一度考えてみる必要があります。

◎私たちは、血筋、家柄、迷信等にこだわる誤った意識や評価など不合理な考えで、判断したり、行動したりしてしまふことがあります。誰もが自由に自分らしく暮らせ「生まれてきてよかった」と言えるように、毎日の生活を見直していくことが、同和問題をはじめとするあらゆる差別をなくしていくことにつながります。

くらしの中の人権について考える

「迷信」と「差別」その背後にある共通性とは…

【“六曜”って何？】

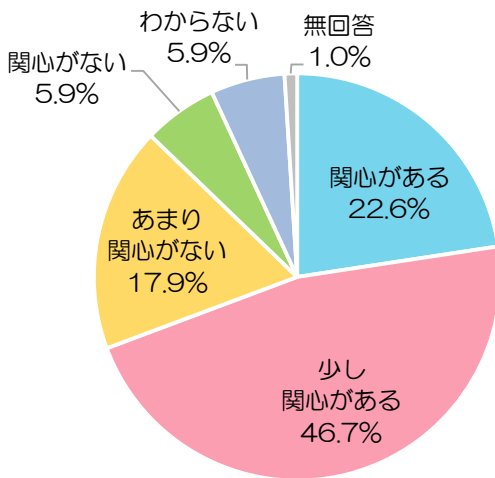
古代中国で起こったものですが、中国では迷信ということで早くから使われていません。大安・仏滅など6つの言葉を機械的に並べたもので、科学的な根拠はありません。

「みんながそうしているから」
「昔から言われていることだから」

私たちは、「世間」の考え方に同調する傾向があります。まずは自分自身が科学的、合理的な考え方を身につけ、考え、判断することが重要です。それが差別をなくし、一人ひとりが自分らしく生きることができるとする社会に向けての一步になるのではないのでしょうか。

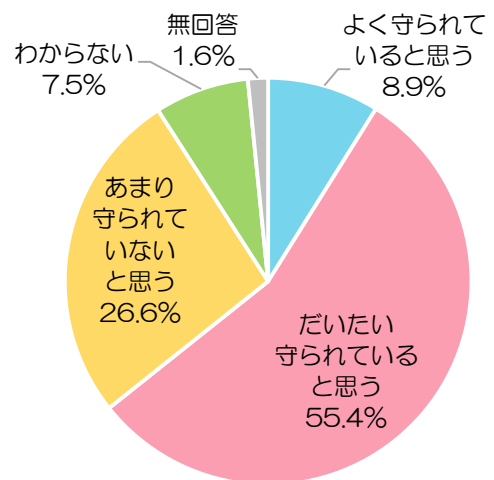
人権問題について

◆人権や差別問題に関心を持っていますか？



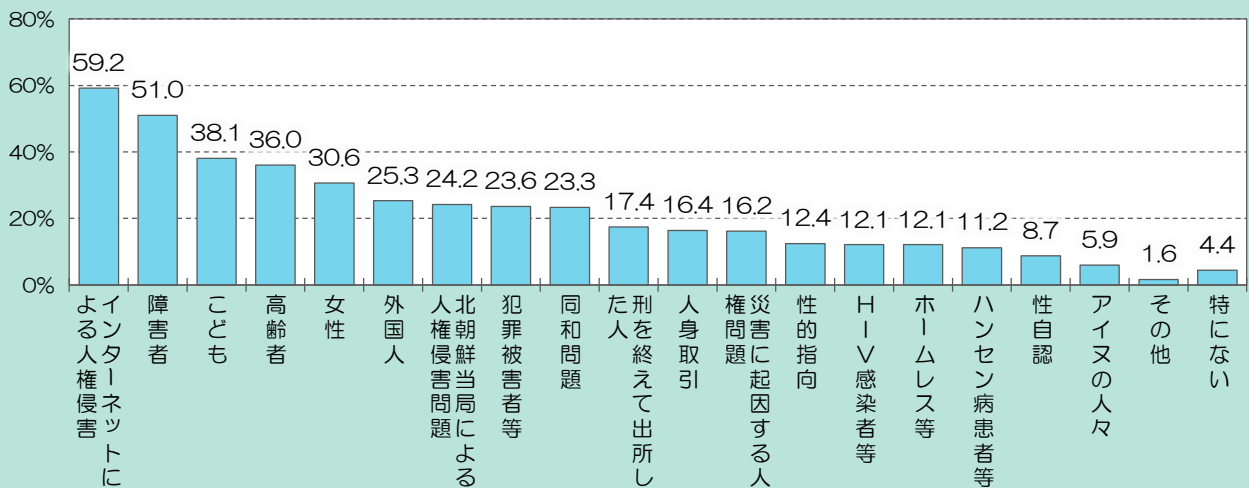
- 「少し関心がある」が46.7%で最も高く、次いで「関心がある」が22.6%、「あまり関心がない」が17.9%、となっています。

◆基本的人権が守られていると思いますか？



- 「だいたい守られていると思う」が55.4%で最も高く、次いで「あまり守られていないと思う」が26.6%、「よく守られていると思う」が8.9%となっています。

◆人権問題にかかわる問題で関心のあるもの、重要と思われるものは何ですか？



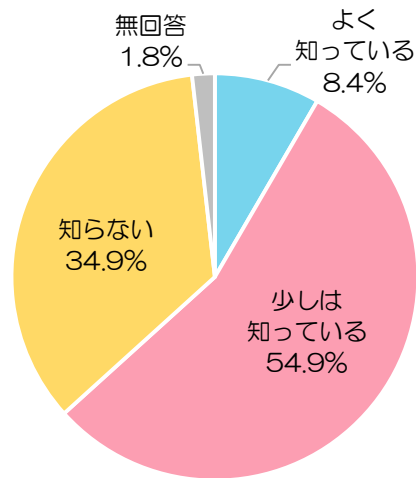
- 「インターネットによる人権侵害」が59.2%と最も多く、次いで「障害者」が51.0%、「子ども」が38.1%となっています。

◎普段、何気なく過ごしている日常生活の中にも、人権という視点から見るとさまざまな問題があります。今回の調査ではインターネットによる人権侵害が最も関心が高くなっています。インターネット上には真実に基づかない情報も多くあります。多く閲覧されているものが正しいとは限りません。

◎真偽を確かめずに情報を受け売りすることにより、自分の意に反して他人を傷付けてしまったり、逆に傷付けられたりする可能性があります。私たちは、差別する側にも、される側にも立つ可能性があるのです。情報に流されず、自分自身で考え、行動することが差別をなくしていくことにつながるのではないのでしょうか。

同和問題について

◆同和地区等と呼ばれ、そこに生まれ、住む人たちや出身の人たちに対して、今でも差別が続いていることを知っていますか？

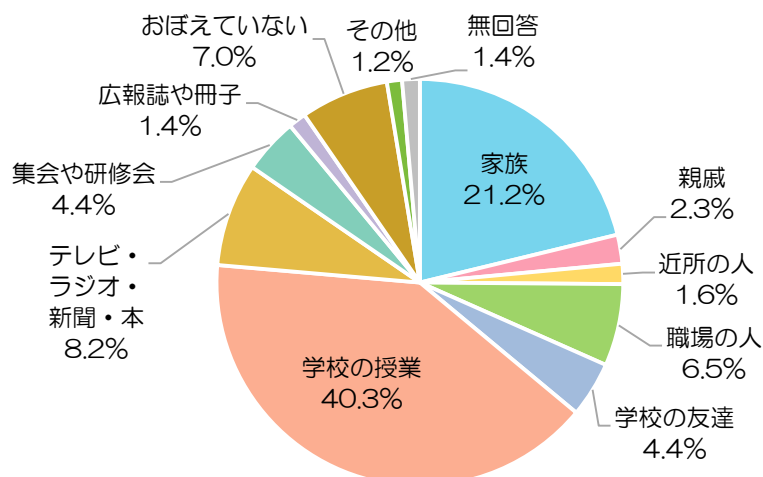


- 「少しは知っている」が54.9%で最も高く、次いで「知らない」が34.9%、「よく知っている」が8.4%となっています。

◎同和問題を自分自身の問題としてとらえ、日頃の行動や、意識の中にある差別性に気づくことが大切です。

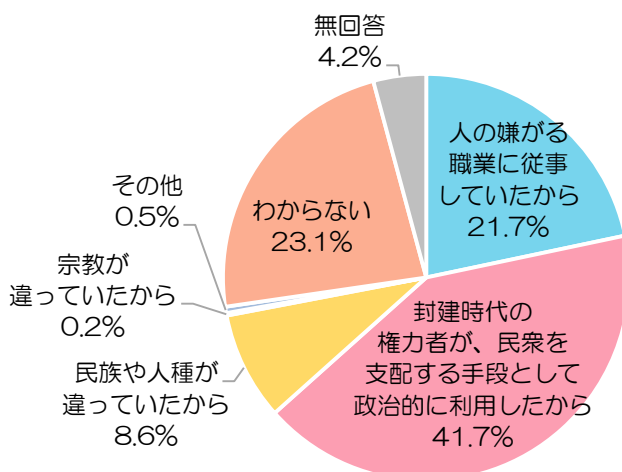
◎講演会や地域での研修会等に積極的に参加し、繰り返し学習することで、同和問題を正しく理解し、差別をなくすための行動につなげていきましょう。

◆同和問題についてはじめて知ったきっかけは、何からですか？



- 「学校の授業で教わった」が40.3%で最も高く、次いで「家族から聞いた」が21.2%、「テレビ・ラジオ・新聞・本で見た」が8.2%となっています。

◆同和地区出身の人はどうして差別されるようになったと思いますか？

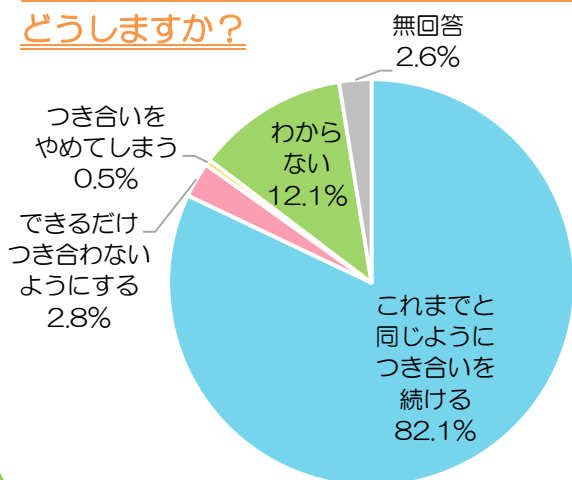


- 「封建時代の権力者が、民衆を支配する手段として政治的に利用したから」が41.7%と最も高く、次いで「わからない」が23.1%、「人の嫌がる職業に従事していたから」が21.7%となっています。

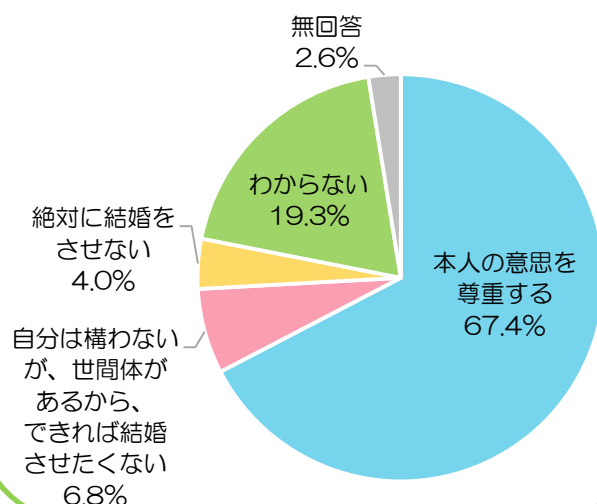
◎同和地区は、封建時代の権力者が政治的に支配する手段として身分を制度化することから起こったものです。明治4年のいわゆる「解放令」によって制度的に差別はなくなりましたが、現実の社会生活の中では差別が残りしました。

◎同和問題は、同和地区の出身であることを理由に、本人に責任のないことで、就職や結婚など不利益をこうむり差別を受けるといふ人権問題です。

◆あなたが日頃から親しくつき合っている近所の人や職場の人が同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどうしますか？



◆あなたのお子さんが結婚しようとしている相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどうしますか？

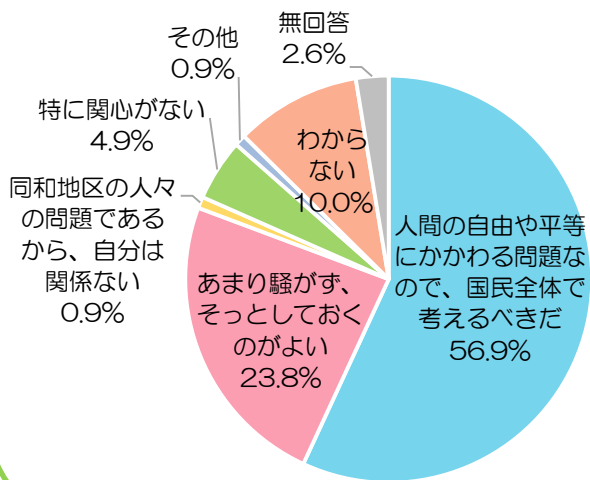


- 自分の近所や職場の人との付き合いについて「これまでと同じようにつき合いを続ける」が82.1%と最も高くなっています。また自分の子どもの結婚については、「本人の意志を尊重する」が67.4%と最も高くなっています。

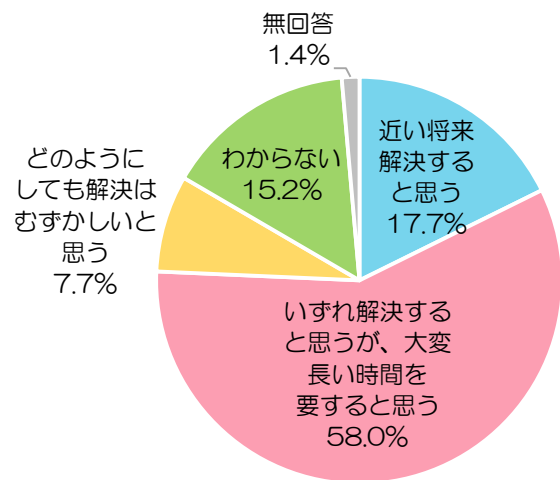
◎差別につながるような習慣や偏見、固定観念を、疑問に思うことなく受け入れていないか、常に自分自身に問い直していく必要があります。

同和問題の解決について

◆同和問題について、あなたはどうお考えですか？

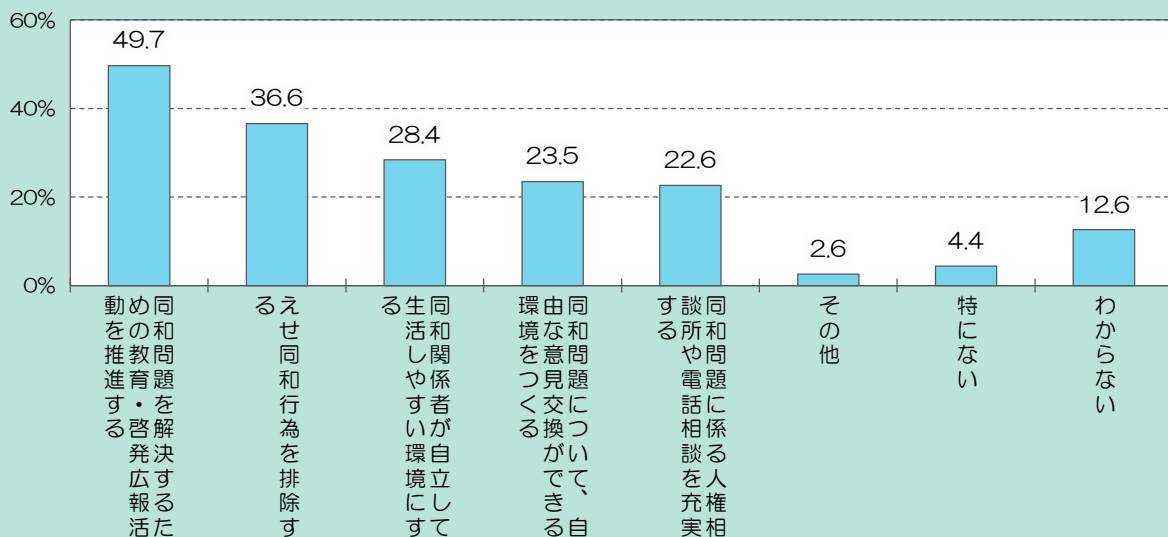


◆同和問題はこれからどうなると思いますか？



●同和問題について、「人間の自由や平等に関わる問題なので、国民全体で考えるべきだ」が56.9%と最も高くなっており、これからどうなるかと思うかについては、「いずれ解決すると思うが、大変長い時間を要すると思う」が58.0%となっています。

◆同和問題を解決するためには、今後どのようなことが必要だと思いますか？

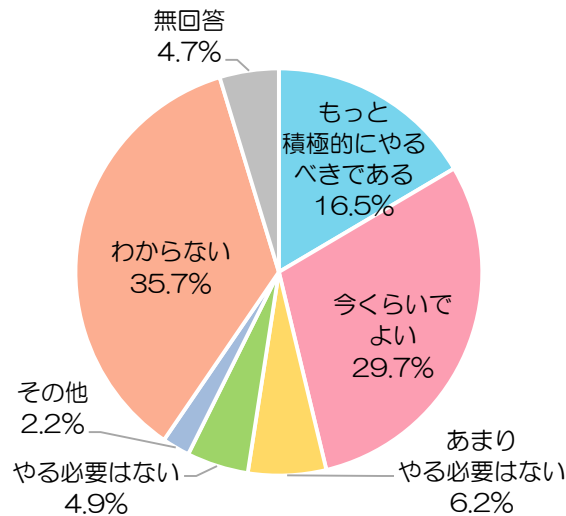


◎「そっとしておくのがよい」という考え方があります。しかし、インターネットの普及など情報化社会の進展により、誤った情報が氾濫している現状があります。正しい情報を得て正しく理解することが重要です。部落差別解消推進法では部落差別が今もなお存在することが明記されています。「そっとしておく」ことは差別を放置することであり、差別を受けている人に差別を我慢することを強いることになるのです。

◎同和問題について理解を深め、正しく認識していくことが必要です。

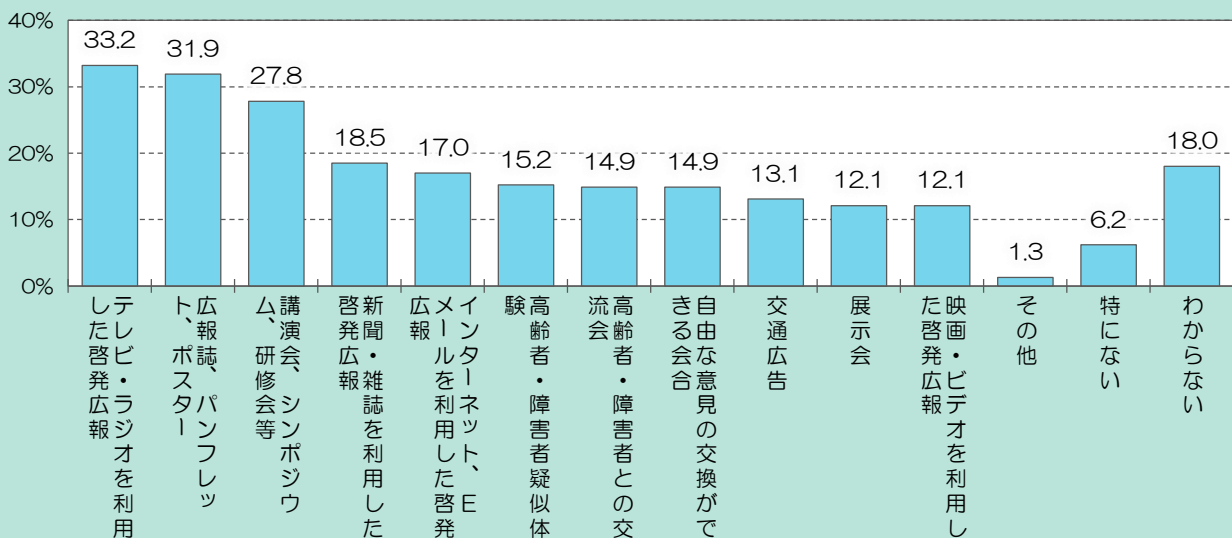
啓発活動について

◆あなたは、啓発活動（講演会、研修会、広報等）について、今後どうすればよいと思いますか？



●啓発活動（講演会、研修会、広報等）について、「わからない」が35.7%と最も高く、次いで「今くらいでよい」が29.7%となっています。

◆同和問題を解決するためには、今後どのようなことが必要だと思いますか？



●「テレビ・ラジオを利用した啓発・広報」が33.2%と最も高く、次いで「広報誌・パンフレット・ポスター」が31.9%となっています。

◎市民一人ひとりが基本的人権を尊重し、人権問題の正しい理解と認識を深められるように、また参加しやすい講演会、研修会の実施など、積極的な啓発活動を進めていきます。

◎効果的な啓発・広報活動を行うために、人権問題が市民の日常生活と密接なかかわりがあることを自覚、認識してもらうことに力を入れ、誰もが理解しやすい情報をいろいろな方法で提供していきます。

●市民のみなさまへ

— 人権・同和問題に関する市民意識調査について —

人権とは、「人間が幸せに生きていくための権利」であり、最も身近で大切なものです。また、私たち一人ひとりの生命や自由、平等を保障し、日常生活を支えている大切な権利です。

鳥栖市では、複雑化、多様化する人権課題に適切に対応するため、平成30年度に鳥栖市人権教育・啓発に関する基本方針を改訂し、性別や国籍、世代など、さまざまな違いを越えて、お互いがお互いを認め合いながら、すべての人の人権が尊重され、共に支え合い、共に生きることのできる「共生社会」の実現を目指し、同和問題をはじめとして、女性、子ども、高齢者、障害者、外国人などに関するさまざまな人権問題の解決を図るために、人権教育、啓発を展開しています。

今回の「人権・同和問題に関する市民意識調査」は、市民の皆さまの人権・同和問題についての意識を把握し、その状況を明らかにすることによって、今後の人権・同和教育、啓発事業の効果的な推進を図ることを目的として実施いたしました。

この調査結果を踏まえ、差別や偏見のない、人権が尊重される社会の実現に努めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、この調査にご協力をいただいた市民の皆さまに心から厚くお礼を申し上げます。

令和2年3月

鳥 栖 市

鳥栖市教育委員会

調査の概要

- 1 調査対象 鳥栖市在住の20歳以上の男女2,000人
- 2 抽出方法 無作為二段抽出法
- 3 調査方法 郵送法
- 4 調査時期 令和元年9月
- 5 有効回収数(率) 677(33.9%)
男 269人
女 397人
(無回答 11人)

- ・複数回答の設問の場合、回答数の合計を回答者数(N)で割った比率を表し、通常、この比率は100%を超えます。
- ・比率は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。